

平成29年度
社会福祉法人小百合苑
事業報告書

社会福祉法人小百合苑

理事長 大西正隆

法人理念 子どもの最善の利益を考える 誇りと責任を持って真心保育を実践する
子どもの成長発達を支える 保育を通して福祉に邁進する
子育てに関わる社会的役割を果たす

法人事業

- 第二種社会福祉事業
- イ) 放課後児童健全育成事業 古川橋小学校・門真小学校放課後児童クラブ
 - ロ) 一時預かり事業 古川園・柳町園
 - ハ) 養育支援訪問事業 古川園
 - ニ) 幼保連携型認定こども園 古川園・柳町園

施設整備

- 29年度新規事業 門真小学校放課後児童クラブを軌道に乗せる。
- 30年度小規模保育所認可に向けた申請事務

情報開示

社会福祉法人制度改革にそって透明性の高い法人運営に努めた

苦情解決 保護者の声を真摯に聞き、事業所で苦情処理に取り組み、丁寧に対応した

以下のスタッフは虐待防止委員も兼ねる。

	古川園	柳町園	古川橋児童クラブ	門真児童クラブ
苦情解決責任者	大西潤子	大西宏幸	大西潤子	大西宏幸
苦情受付担当者	秋山尚美	眞野千恵美	阿部利香 藤岡里実	平田玲子 大西佐知子
公正採用選考人 権啓発推進員	藤岡里実	大西佐知子	阿部利香	平田玲子
安全衛生推進者	藤岡里実 松成晋一	大西佐知子	阿部利香	平田玲子
人権リーダー 養成講座修了者	藤岡 秋山 松成 平井 寺田 富本	大西佐	田中	平田

法人職員研修

- 4/1 接遇研修「まごころコミュニケーション 明るい笑顔、優しい言葉の創造」矢島君江氏
- 12/9 公開子育て講座「子育てのアンガーマネジメント」中地陽子氏（人権啓発研修報告）
参加者：4施設の利用者/職員 地域子育て家庭 民生委員 学校評価者

虐待防止・機関連携

- ・早期発見に取り組み、門真市子どもの未来応援団、家庭児童相談所等と連携した

危機管理

- ・市内防犯情報等もあり、よいこネットの登録の協力を繰り返し求めた。
- ・職員の防災意識を高め、不審者対応、南海トラフ地震など大規模災害に備えた。

福利厚生

- ・心身共に安心安全な職場作りを目指し、法人内で長く働く事が出来るよう労働環境を整えた

保育教育事業 古川園・柳町園

保育方針

一人ひとりのこどもを大切に、個性に応じて良い面を伸ばし、明るい笑顔、優しい言葉をモットーに心身共に健やかに、家庭的な雰囲気の中で真心のある保育を実践します

保育目標

よく見て、よく聞いて、よく考える子 心身共に健やかな子 思いやりのある心豊かな子

保育計画

こどもの最善の利益を考える

一人ひとりの個別計画の下に成長発達を支える

子どもの立場や思いを理解し、楽しい園生活を保障する

叱らない、教える保育、喜びを感じる保育の推進

子どもの人権を守る（いじめ、仲間はずれ、懲戒等はしない、させない）

保育サービス 重要事項説明書の同意を得て、保育を開始した

- ・乳児保育 3カ月から
- ・一時保育 6カ月から
- ・延長保育 古川園 18～19時 柳町園 18時30分～20時 認定ごとの延長保育料設定
- ・障がい児保育 障がい・生活のしづらさを理解 同じ場で共に育ち合うことを目的とした。
- ・1号認定児 入園手続き、保育カリキュラム、延長保育料金・保護者負担金等を整える
- ・門真市5歳児保育教育無償化

職員

30年3月	古川園	柳町園
園長	大西潤子	大西宏幸
副園長	藤岡里実	大西佐知子
主幹保育教諭	秋山尚美 松成晋一	眞野千恵美 橋田裕子
正規保育教諭	16名	16名
非正規保育者	10名	12名
短時間保育者 20時間未満	3名	
保育補助	2名	4名

地域貢献事業

- ・子育てに関わる社会的使命、役割を果たすためアプローチを考え、地域貢献と、門真の貧困対策からこども食堂を開始。
- ・主幹保育教諭がスマイルサポーターとして親子保育を担当、地域の虐待児早期発見、公的機関につなげた。
- ・地域親子の園行事参加、親子絵本ふれあい・赤ちゃんの駅事業、なかよし広場出張保育等

	古川園	柳町園
園庭開放・育児相談	毎木・土曜日 10:30～13:00	毎水曜日
地域園児交流	毎月第3木曜 10:30～11:30	
親子保育他	毎月第2木曜 11:00～12:00	第1水曜
こども食堂 12月より	ターゲット型 土曜日月3回程度	ユニバーサル型 行事外土曜日
地域貢献支援員 スマイルサポーター	秋山 平井 松成 富永 淡路 福本 寺田 寺馬 倉本	大西 眞野 橋田

職員資質向上

- ・学校施設関係者評価委員会評価会議、自己評価公表シート公開、保育を振り返る機会となった
- ・幼保連携型認定こども園教育保育要領・保育所保育指針・幼稚園教育要領トリプル改訂に臨む
- ・幼稚園免許更新・処遇改善につながるキャリアアップ研修の費用負担等、積極的に支援した

保育内容・子どもの活動・行事他

- ・社会情動スキル、生きる力を伸ばすための保育・教育を考えた
- ・生育歴・心身の発達、及び、活動の実態に即し個別計画を立て、生活リズムの安定を目指した
- ・自己肯定感を高める保育を考えた

CS(Customer Satisfaction) 行事計画

- ・保護者アンケートの結果を考慮し計画を立てた。保護者の保育参加を募集した

危機管理

- ・震災等の非常時には、乳幼児に特化した施設として地域の拠点となる準備をした
- ・門真警察（交通安全・防犯）、門真消防署（火災・地震・市民救命士）の指導を受けた
- ・毎月の避難訓練 年1回二次避難所誘導訓練 古川園：古川橋小学校 柳町園：速見小学校

保健・食育

嘱託内科	嘱託歯科	嘱託眼科（柳町園）	嘱託薬剤師
堺医院：堺昭彦医師	大西歯科医院：大西光和医師	川上眼科：川上剛医師	溝端裕己

- ・薬剤師による検査、指導を受け、快適な保育環境を見直した
- ・門真市小児科医の就学前教育保育施設等研修会を受講し、市内共通の感染症対応を学んだ
- ・全職員がAED、救命救急を習得した。
- ・病後・有症状児(発熱・下痢・嘔吐等)を個々に対応。職員が感染媒体とならないよう努めた
- ・特定給食施設栄養管理報告書から幼児のやせ、肥満を把握し、保護者に伝えた。
- ・玄関に献立サンプル陳列。食育だより発行レシピ掲載 楽しい食育行事(野菜植え・収穫祭等)
- ・保護者に離乳食・除去食対応の書類の提出を求め、委託会社と情報共有を図る。
- ・アレルギー児が同じ給食を食べられるように、アレルギーの無いメニュー日を導入
- ・ウオクニ株式会社に給食業務委託 園の意向や、異物混入発見時等の対応、改善を求めた

養成校連携・その他

- ・保育実習生、ボランティア、中学生職業訓練、高校生のための保育の職業体験事業を受入れた

古川園

門真市古川町7-3

保育内容 子どもの活動他

0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	全園児	一時保育年間
15名	24名	27名	32名	32名	30名	160名	1748名

- ・こども園2年目。初年度を振り返りながら保育業務を進めた。
- ・こどもの主体的な取組を増やし、自由保育と一斉保育の共存した古川園の保育が見えてきた
- ・子ども家庭センター、門真市家庭児童相談所のケースが多く在籍。ケース支援で保護者を支えたが2件途中退園者を出す結果となった。
- ・支援学級入級に向け保護者支援、各小学校連携会議、個別の教育的ニーズに柔軟に対応した

苦情解決・相談

8件

- ・他児に顔を殴られ、永久歯への影響が不安（苦情解決会議に第三者委員同席）
- ・運動会予備日が悪天候だった場合、以降の開催予定まで事前に知らせてほしい
- ・名前以外の呼び名をやめさせてほしい
- ・帽子・タオルの紛失
- ・他園慣らし保育児の午後の一時的保育利用について
- ・発熱翌日の保育について
- ・行事前日の早帰りの協力依頼について
- ・結膜炎でお迎えまで許可なく隔離保育をした

研究課題

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい望ましい10の姿」について職員のレポート集を作成
- ・消防署による園内での起こりうる事故想定で救命実践研修 職員の連携の大切さを痛感した
- ・引き続きインリアルを学ぶ。言葉の発達を考慮し「自発語+2語まで」ゆっくり話した
- ・職員コミュニケーションに課題があった。互いに人を育て合う職場作りに努めた
- ・中間就労対象施設の準備を継続 養育支援訪問事業に備え人材育成

CS(Customer Satisfaction) 行事計画

- ・入園前、個人懇談は2名で対応し、個々の課題、発達、親の思いについて情報を共有した。
- ・保護者アンケートの結果、改善策を玄関掲示した

危機管理

- ・不審者侵入対応・消防計画・安全チェックリストを見直した。警察通報装置導入
- ・門真市の浸水エリア、土砂崩れエリア等を把握し非常時に備え、津波想定訓練をした。
- ・大規模災害や弾道ミサイル等、職員が帰宅できない緊急時に備え、個々にイメージを持たせた。
- ・水遊び事故の危機感からプール監視業務を独立。配置できないときはプール遊び休止を徹底。

保健・食育

- ・生体物質の取り扱い、感染症の標準的な予防法を周知し、職員の衛生環境を向上させた。
- ・食材・薬のアナフィラキシー事案があり、アレルギー・アナフィラキシーを学んだ

地域子育て支援

- ・ターゲット型こども食堂 気になる家庭のこどもを土曜に招き、給食と遊びの提供をした
- ・地域の方の園行事の参加が定着し、地域子育ての不安軽減につながった。

施設整備他

- ・2階幼児トイレを快適な環境に改修した。
- ・保育所施設整備積立資産支出 400万円 修繕費積立資産支出 700万円
- ・パンフ作成 音響設備購入 給湯器 警察非常通報装置

柳町園

門真市柳町14-10

保育内容 子どもの活動他

0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	全園児	一時保育年間
15名	24名	29名	35名	35名	34名	172名	1330名

- ・新しい環境での保育を1年間通し確立させる。
- ・平成29年3月9日竣工、11日より新園舎で保育。29年度当初より落ち着いて保育できた。
- ・クラス名、クラスカラーの変更を機に、用品購入の削減を行い、保護者負担を減額した。
- ・正課指導を導入し、卓上で数や図形を楽しく学ぶ機会を作った。

苦情解決・相談 6件

- ・通行人より保護者への苦情
- ・健康診断の内容を直接伝えて欲しい。
- ・異年齢になった事の説明
- ・怪我をした、させたは、両方の親に伝えてほしい。
- ・毎月の制作を復活させてほしい
- ・夏祭りの保護者の手伝いを減らしてほしい。

待機児童解消対策

- ・門真市の意向に沿い、新園舎建設に伴い定員を162名（外1号12名）に増員した。

保育内容 子どもの活動 他

- ・平成29年度は「とにかく楽しいこども園」をテーマに、保育をすすめた。
- ・保育の新しい取組として、1歳児を2クラスに分け、落ち着いた環境を作った。より、少人数の担当制を確立し、細かなスケジュールを立て円滑に日常が送れるよう拘った。
- ・幼児は引き続きワンフロア異年齢保育を充実させた。年長児は昨年よりも自立心が芽生え、職員も異年齢の必要性を実感した。今後の課題や問題点も見え成果をあげている。
- ・行事を新たに見直し、異年齢プログラムと同年齢プログラムを取り入れた。
- ・3階ホールがあることにより、雨の日や、活動範囲が広がった。
- ・講師を招いての園内研修、外部研修での発表、事後報告などを行い質の向上を図った。

保健・食育

- ・看護師の配置により、専門性の高い知識を保育に取り入れることができた。
- ・インフルエンザ流行前から、対策や対応の周知を行い、他クラスへの感染を食い止めた。
- ・子育て支援室を利用し、園の収穫物でクッキングをした。
- ・飲食店を訪ね、調理の様子を見学し、レシピを教わった。

地域子育て支援

- ・一時預かり保育を再開 ロコミで人気を広まり初年度としては高い実績を積んだ。
- ・門真市こども食堂連絡会や子ども食堂を実施する飲食店からアドバイスを受け、土曜日に食事と一息つける環境を提供。また、各機関、保護者から菓子や食材の支援を受けた。
- ・保護者会を通し保護者同士の交流が深まった。

危機管理

- ・新園舎となり、新たに消防計画、避難経路、器具位置や使用方法等の確認をした。
- ・安全チェックリストを新たに作成した。
- ・門扉、玄関の施錠方法を改めて見直した。

施設整備

- ・新園舎の保守点検後の補修 ・不具合等の修繕(玄関施錠、門扉施錠、壁紙、空調)

青少年健全育成事業

放課後児童クラブ

設置目標

児童に対し適切な遊びと生活の場を与えると共に、異なった学年による児童の集団活動を推進することにより、放課後における児童の健全育成を図る

クラブ方針

- ・職員が丁寧に学習指導する。静かな落ち着いた雰囲気の中で子どもの基礎学力を補う
- ・子ども達が楽しいと思えるような時間と場所を常に用意する
- ・委託仕様書による 活動時間 授業終了後～18時 休校日は8時30分～18時
クラブ室面積で最大受入れ人数を設定、定員を大幅に超えた入会者

	古川橋小学校児童クラブ	門真小学校児童クラブ
所在地	門真市御堂町18番9号	門真市柳町4番1号
定員／面積定員／全校数	80名／158名／約260名	120名／138名／約490名
在籍 29年4月／30年3月	106名／91名	128名／110名
主任児童支援員	阿部利香 田中優	平田玲子
副主任児童支援員	彦坂美登里 阪本真里奈	森本愛 山之内愛紀
有資格支援員	9	6
加配担当支援員	2	7
放課後児童支援員認定研修	阪本真里奈 野口美千与	森本愛 山之内愛紀

苦情受付

<p>古川橋小学校放課後児童クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年女児の成長に対し、配慮を欠いた発言があった ・一年生所属地区の支援員付添下校について、5月以降「児童だけの下校が不安」と市役所に声があった。当クラブ独自の配慮だが、委託のルールと照らし、付添い中止、及び、期間を再検討。 ・目の上の打撲の報告忘れ。 ・集団下校子ども同士のトラブル ・頭ジラミ『学校にも報告し、今後、感染しないようにしてほしい』
<p>門真小学校放課後児童クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブの下校ルートは学校と同じ全員正門からの下校。6時迎えの際、車で迎えに来るため、正門付近には駐車ができない。前事業者は裏門からの下校に対応をしていた。 ・下校ミスが何度もあっては困る ・集団下校時に上級生に叩かれる。 ・支援員にきつく叱られた。親でもそんなに怒ったことはない ・柳町園での誕生会『クラブ時間内に学校外に出ていいのか。勝手に子どもを校外に連れ出さないでほしい』 ・集団下校の17時から前後することは遅れると心配、早いと待ち合わせができず困る。 ・学校時間内の同級生同士の喧嘩の理由が、児童クラブ内のトラブルが起因しているとお叱り。 ・物がなくなる。なんとかしてほしい。 ・宿題は支援員がついて全部、必ず、やらせてほしい。

クラブ内容・活動・行事

- ・古川橋児童クラブの主任が両校クラブの書類など事務作業をサポートした。
- ・玩具や室内の使い方を見直し、室内でも遊び込める環境になってきた。

- ・障がい児保育 自立と社会参加を見据え、共に育ち合うよう成長促進 ケース研究、家族支援
- ・季節の制作・レクレーション・夏祭り、ハロウィンも楽しそうに参加した
- ・子どもを尊敬する。人権を守り、立場や思いを理解し、ソーシャルスキルについて話し合った。

食育・保健

- ・アレルギー児の誤食確認を徹底する。緊急時対応のエピペン、救急車通報訓練・小学校と連携。
- ・感染症予防のため病後児にマスク着用、換気の徹底。学級閉鎖対象児はクラブ参加させない。
- ・ケガ、病気等、緊急事態発生時には保護者との連絡を密にする。市役所へ報告した
- ・季節感を感じる手造りおやつに力を入れた。かき氷、もちつき、雑煮、バレンタイン等

危機管理

- ・学校集団下校・児童クラブ集団下校・保護者迎えの確認をした。
- ・避難訓練 学期毎に実施した。
- ・低学年が多く下校中のトラブルが多かった。終礼時に約束事の話合いを徹底した。

各クラブの様子

古川橋小学校放課後児童クラブ

- ・在籍数の大幅な増加でクラブ室の使い方、玩具の配置を変えた
- ・児童の縦のつながりが深まる活動をした
- ・学校・支援学級・障害福祉課と連携して課題ある家庭を支えた
- ・支援学級入級者の多くが在籍するため、急な退会が職員の雇用契約、委託料に直結する課題
- ・学校近辺でチャドクガが大量発生 保健室の指導を受け駆除、対処法の手紙を配布した
- ・校区内で暴走車事件の報告があり、支援員が付添下校をした。
- ・おやつ提供方法を見直し、子ども達が積極的に食べるようになった。
- ・古川園子ども食堂、遊びの提供を高学年児と共にサポート 他校の児童と触れ合う機会に
- ・男女共障がい者用トイレのドアが頻回に故障。行政予算の関係で工事できず、不便が続く。
- ・頭ジラミが流行
- ・学習時間は静かに集中し取り組んだ。高学年在籍により、支援員が現行の学習指導法を研究。
- ・会議や相談案件を書面で残し、職員全員が意識を統一した。

門真小学校放課後児童クラブ

- ・事業を軌道に乗せることを最優先に取り組んだ。事業者変更に対する不安を解消できるように対応をしたが、行政や、前事業者による事業者変更の経緯等の説明不足から、風当たりが強く、軌道に乗るまで時間がかかった。前事業者の対応との差異に不満が多かった。その苦情は学校・行政が了解できない保護者の要望のため、保護者に丁寧に説明し続けた。
- ・定員を超える大人数だが、ランチルーム使用についての時間的制限等、人数に見合った運営条件が用意されず、安定した保育提供が困難だった。3クラブ室の専用化を求め続けた
- ・児童との関りのまずさからトラブルになり、職員が首のケガをした
- ・下校途中の万引きなどの行為があり、学校と連携して指導した
- ・職員のシフト調整が難しかった。急な欠勤者が多く対応に追われた
- ・要配慮児への配慮や特性を理解し、信頼関係を築くことに時間がかかった。
- ・一部の児童が支援員の優しさを逆手に取り、無理難題や暴言、玩具の破損紛失が続く。「さあ、暴れたろう」と意気込み児童クラブに来る。「前のほうがよかった」など環境の変化によるものと思われる不満や不安を支援員にぶつけることがあり、信頼関係を築くことが難しかった。
- ・児童の多くは毎日楽しいと参加し、柳町園へ遊びに来ることや、行事も喜んでいた。
- ・当初立ち上げの時から、職員の入替わりが多かった。退職理由は、病気や家庭都合、運営方針への不満等、様々だった。子どもの言動が怖く、職員数名が辞めたことが残念だった。

法人名 社会福祉法人 小百合苑
 事業所名
 事業・拠点 [0010:社会福祉]

法人単位資金収支計算書
 (自)平成29年 4月 1日 (至)平成30年 3月31日

第一号第一様式 (第十七条第四項関係)

(単位:円)

勘定科目		予算	決算	差異
事業活動による収支	収入			
	保育事業収入	429,156,700	473,788,098	44,631,398
	経常経費寄附金収入	100,000	100,000	
	受取利息配当金収入		51,181	51,181
	その他の収入	2,901,000	3,354,861	453,861
	事業活動収入計(1)	432,157,700	477,294,140	45,136,440
	支出			
	人件費支出	313,810,000	339,182,390	-25,372,390
	事業費支出	43,685,000	36,893,857	6,791,143
	事務費支出	58,036,000	59,501,693	-1,465,693
支払利息支出		237,416	-237,416	
その他の支出		2,365,718	-2,365,718	
事業活動支出計(2)	415,531,000	438,181,074	-22,650,074	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	16,626,700	39,113,066	22,486,366	
施設整備等による収支	収入			
	施設整備等収入計(4)			
	設備資金借入金元金償還支出	7,000,000	5,371,000	1,629,000
	固定資産取得支出	3,700,000	2,396,329	1,303,671
施設整備等支出計(5)	10,700,000	7,767,329	2,932,671	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-10,700,000	-7,767,329	2,932,671	
その他の活動による収支	収入			
	積立資産取崩収入		472,080	472,080
	その他の活動による収入計(7)		472,080	472,080
	積立資産支出	6,000,000	22,880,960	-16,880,960
	その他の活動支出計(8)	6,000,000	22,880,960	-16,880,960
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-6,000,000	-22,408,880	-16,408,880	
予備費支出(10)				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-73,300	8,936,857	9,010,157	
前期末支払資金残高(12)	69,822,743	69,822,743		
当期末支払資金残高(11)+(12)	69,749,443	78,759,600	9,010,157	

法人名 社会福祉法人 小百合苑
 事業所名
 事業・拠点 [0010:社会福祉]

法人単位事業活動計算書
 (自) 平成29年 4月 1日 (至) 平成30年 3月31日
 第二号第一様式 (第二十三条第四項関係)
 (単位: 円)

勘定科目		当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部	収益			
	保育事業収益	473,788,098	404,524,391	69,263,707
	経常経費寄附金収益	100,000	164,200	-64,200
	サービス活動収益計(1)	473,888,098	404,688,591	69,199,507
	費用			
	人件費	341,060,071	284,094,872	56,965,199
	事業費	36,893,857	34,997,009	1,896,848
	事務費	59,501,693	65,129,297	-5,627,604
	減価償却費	17,191,683	12,863,441	4,328,242
	国庫補助金等特別積立金取崩額	-9,762,288	-34,461,365	24,699,077
サービス活動費用計(2)	444,885,016	362,623,254	82,261,762	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	29,003,082	42,065,337	-13,062,255	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	51,181	43,549	7,632
	その他のサービス活動外収益	3,354,861	4,182,380	-827,519
	サービス活動外収益計(4)	3,406,042	4,225,929	-819,887
	費用			
	支払利息	237,416	109,863	127,553
その他のサービス活動外費用	2,365,718	2,075,872	289,846	
サービス活動外費用計(5)	2,603,134	2,185,735	417,399	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	802,908	2,040,194	-1,237,286	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	29,805,990	44,105,531	-14,299,541	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益		257,894,000	-257,894,000
	特別収益計(8)		257,894,000	-257,894,000
	費用			
	固定資産売却損・処分損	11,723	34,486,628	-34,474,905
国庫補助金等特別積立金取崩額(除)	-4,800		-4,800	
国庫補助金等特別積立金積立額		257,894,000	-257,894,000	
特別費用計(9)	6,923	292,380,628	-292,373,705	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	-6,923	-34,486,628	34,479,705	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	29,799,067	9,618,903	20,180,164	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	123,766,806	107,147,903	16,618,903
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	153,565,873	116,766,806	36,799,067
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)		10,000,000	-10,000,000
	その他の積立金積立額(16)	21,000,000	3,000,000	18,000,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	132,565,873	123,766,806	8,799,067

法人名 社会福祉法人 小百合苑
 事業所名
 事業・拠点 [0010:社会福祉]

法人単位貸借対照表
 平成30年 3月31日現在

第三号第一様式 (第二十七条第四項関係)
 (単位:円)

	資 産 の 部		負 債 の 部		増 減
	当年度末	前年度末	当年度末	前年度末	
流動資産	112,464,420	353,066,035	-240,601,615	40,392,820	-248,221,472
現金預金	75,871,184	51,506,214	24,364,970	24,153,102	-255,170,937
事業未収金	33,764,808	45,087,625	-11,322,817	6,688,000	1,317,000
未収金	11,280	11,280	11,280	12,489	8
未収補助金	2,297,620	255,894,000	-253,596,380	333,976	198,600
前払金	519,528	578,196	-58,668	9,205,253	5,484,608
固定資産	632,933,911	625,573,775	7,360,136	99,580,464	-4,810,319
基本財産	490,575,464	503,904,567	-13,329,103	72,941,000	-6,688,000
建物	490,575,464	503,904,567	-13,329,103	26,639,464	1,877,681
その他の固定資産	142,358,447	121,669,208	20,689,239	139,973,284	-253,031,791
建物	17,177,730	17,942,851	-765,121		
構築物	246,494	271,538	-25,044		
車両運搬具	379,889	667,381	-287,492	20,860,726	20,860,726
器具及び備品	8,916,344	10,133,328	-1,216,984	20,860,726	20,860,726
ソフトウェア	575,000		575,000		
退職給付引当資産	20,312,990	18,904,110	1,408,880	357,498,448	-10,008,755
その他の積立資産	94,500,000	73,500,000	21,000,000	357,498,448	-10,008,755
その他の固定資産	250,000	250,000		94,500,000	21,000,000
				55,500,000	34,500,000
				24,000,000	24,000,000
				15,000,000	15,000,000
				132,565,873	123,766,806
				132,565,873	123,766,806
				29,799,067	9,618,903
				605,425,047	585,634,735
資産の部合計	745,398,331	978,639,810	-233,241,479	745,398,331	-233,241,479
				978,639,810	978,639,810
				20,860,726	20,860,726
				367,507,203	367,507,203
				367,507,203	367,507,203
				73,500,000	73,500,000
				34,500,000	34,500,000
				24,000,000	24,000,000
				15,000,000	15,000,000
				123,766,806	123,766,806
				123,766,806	123,766,806
				9,618,903	9,618,903
				585,634,735	585,634,735
				978,639,810	978,639,810
				-233,241,479	-233,241,479
負債及び純資産の部合計					